

令和7年度
授業計画書（シラバス）

【2年】

青森中央文化専門学校

授 業 計 画 書

シ ラ バ ス

科 目 名	選択科目Ⅱ（ファッション発展科目）	担 当 教 員	大水 咲良（実務経験有）
配 当 年 次	専門課程 2年次	授 業 形 式	講義 演習
必修・選択	必修科目（アパレル専攻）	履修時間数	175時間（5時間/週）

項 目	内 容				
授業の主題と目標	ファッション業界で“つくる”職種となる「デザイナー」や「パタンナー」の業務に必要な専門的知識と技術の学習。フラットパターンメイキング・ドレーピング・アパレル CAD 等、あらゆるパターンメイキングを応用発展させ、多様なデザインに対応出来る柔軟な思考と、発想されたデザインを正確なパターンにする高度な技術力を習得。				
目標資格	日本ファッション教育振興協会 パターンメイキング技術検定 2級				
使用テキスト	パターンメイキング技術検定試験 2級ガイドブック				
参考書	必要に応じて紹介				
授業計画	前期	1	導入・概要・ガイダンス	19	素材とファーストパターンメイキング・縮尺実技
		2	アパレル企業のパターンメイキング	20	素材と工業用パターンメイキング・縮尺実技
		3	人体とパターンメイキング	21	ドレーピング実技
		4	フラットパターンメイキングの知識	22	
		5		ドレーピングの知識	23
		6	工業用パターンメイキングの知識	24	
		7	グレーディングの知識	25	工業用パターンメイキング実技
		8	グレーディングとアパレル CAD	26	グレーディング実技
		9	マーキングと書類の知識	27	実習・演習 1
	後期	10	素材の知識	28	実習・演習 2
		11	素材とファーストパターンメイキング	29	実習・演習 3
		12	素材とサンプルチェック	30	実習・演習 4
		13	素材と工業用パターンメイキング	31	アパレル CAD 1
		14	フラットパターンメイキング縮尺実技	32	アパレル CAD 2
		15		33	アパレル CAD 3
		16	工業用パターンメイキング縮尺実技	34	アパレル CAD 4
		17	グレーディング・縮尺実技	35	総括
		18			
評価方法	1・出席率 2・授業態度 3・課題 4・期末テスト 以上の累積により評価する。(期末テストによる評価だけではない) 注：出席率80%以下の学生には期末テストを行わない。				
学生へのメッセージ	ファッション業界におけるクリエイターへ必要となる日本ファッション教育振興協会主催のパターンメイキング技術検定試験 2級の取得を目指します。 また、デザインから生産に至るアパレル産業を様々な視点から多角的に学びます。				

授 業 計 画 書

シ ラ バ ス

科 目 名	選択科目Ⅱ（ファッション発展科目）	担 当 教 員	竹洞 春佳（実務経験有）
配 当 年 次	専門課程 2年次	授 業 形 式	講義 演習
必修・選択	必修科目（ファッション販売専攻）	履修時間数	175時間（5時間/週）

項 目	内 容					
授業の主題と目標	心よりの対応の中から、的確に個々のお客様のニーズを察知し、持っている専門的な知識・技術・情報の提供。また、コンセプトに基づく商品のコーディネートを含め、適切に商品を奨められるコミュニケーション能力、実践力を身につける。基礎的な販売知識や接客技術を活かし、販売実務である程度の実績と経験を積んだ臨機応変な接客対応と販売、事務処理などの習得を目指す。					
目標資格	日本ファッション教育振興協会 ファッション販売能力検定2級					
使用テキスト	ファッション販売2 改訂版					
使用備品	iPad					
授業計画	前期	1	販売スタッフの役割	後期	19	市場調査①
		2	顧客づくりの重要性と管理術		20	市場調査②
		3	お客様対応のポイント		21	接客コミュニケーション発展①
		4	コーディネート提案		22	接客コミュニケーション発展②
		5	クレーム対応		23	ファッションアドバイザー実習①
		6	衣類のお手入れ		24	ファッションアドバイザー実習②
		7	お直し		25	ファッションアドバイザー実習③
		8	素材の種類と主要アイテム		26	ファッションアドバイザー実習④
		9	配色の基本技術		27	実習フィードバック
	10	サイズの知識	28	マーケティング実践①コンセプト設定		
	11	店舗コンセプトの具現化	29	マーケティング実践②ポジショニングの確立		
	12	売り場構成	30	マーケティング実践③商品計画		
	13	マーチャンダイジングの知識	31	マーケティング実践④シーズンマーチャンダイジング		
	14	検定試験対策①	32	マーケティング実践⑤店舗開発		
	15	検定試験対策②	33	マーケティング実践⑥プロモーション		
	16	店舗運営管理の基本	34	マーケティング実践⑦EC 戦略		
	17	店舗計数管理	35	総括		
	18	店舗の人事管理				
評価方法	1・出席率 2・授業態度 3・課題 4・期末テスト 以上の累積により評価する。（期末テストによる評価だけではない） 注：出席率80%以下の学生には期末テストを行わない。					
学生へのメッセージ	接客技術や店舗運営に加えてビジネス・流通系の業務に関する専門的な知識・技術を習得し、ファッション販売能力検定2級の取得を目指します。卒業後は業界の即戦力となるよう、あらゆるジャンルのアイテム・ブランド・素材等の知識を身につけてください。					

授 業 計 画 書

シ ラ バ ス

科 目 名	服飾造形Ⅱ（ファッション発展科目）	担 当 教 員	佐藤 雅世（実務経験有）
配 当 年 次	専門課程 2年次	授 業 形 式	講義 演習
必修・選択	必修科目	履修時間数	315時間（9時間／週）

項 目	内 容																																														
授業の主題と目標	1年次学んだ基礎から派生し、ファッションに自分なりの表現を落とし込む方法を学び、その表現の実現に必要な縫製の知識や技術等をより専門的に学びます。ファッションショーの衣装の制作を主な活動とします。																																														
目標資格																																															
使用テキスト	文化ファッション大系①「服飾造形の基礎」 文化ファッション大系②「スカート・パンツ」 文化ファッション大系③「ブラウス・ワンピース」 文化ファッション大系④「ジャケット・ベスト」																																														
参考書	必要に応じてプリント配布																																														
授業計画	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td rowspan="18" style="width: 15%; text-align: center; vertical-align: middle;">前期</td> <td style="width: 5%; text-align: center;">1</td> <td style="width: 60%;">授業説明・デザイン相談</td> <td style="width: 5%; text-align: center;">19</td> <td rowspan="18" style="width: 15%; text-align: center; vertical-align: middle;">後期</td> <td rowspan="18" style="width: 5%;"></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">2</td> <td>生地・デザイン相談</td> <td style="text-align: center;">20</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">3</td> <td rowspan="14" style="text-align: center;">学園祭発表作品制作</td> <td style="text-align: center;">21</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">4</td> <td style="text-align: center;">22</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">5</td> <td style="text-align: center;">23</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">6</td> <td style="text-align: center;">24</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">7</td> <td style="text-align: center;">25</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">8</td> <td style="text-align: center;">26</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">9</td> <td style="text-align: center;">27</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">10</td> <td style="text-align: center;">28</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">11</td> <td style="text-align: center;">29</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">12</td> <td style="text-align: center;">30</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">13</td> <td style="text-align: center;">31</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">14</td> <td style="text-align: center;">32</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">15</td> <td style="text-align: center;">33</td> <td style="text-align: center;">B F L 装飾品制作</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">16</td> <td style="text-align: center;">34</td> <td style="text-align: center;">B F L 衣装最終仕上げ</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">17</td> <td style="text-align: center;">35</td> <td style="text-align: center;">総括</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">18</td> <td style="text-align: center;">B F L 衣装制作</td> <td></td> </tr> </table>	前期	1	授業説明・デザイン相談	19	後期		2	生地・デザイン相談	20	3	学園祭発表作品制作	21	4	22	5	23	6	24	7	25	8	26	9	27	10	28	11	29	12	30	13	31	14	32	15	33	B F L 装飾品制作	16	34	B F L 衣装最終仕上げ	17	35	総括	18	B F L 衣装制作	
前期	1		授業説明・デザイン相談	19	後期																																										
	2		生地・デザイン相談	20																																											
	3		学園祭発表作品制作	21																																											
	4			22																																											
	5			23																																											
	6			24																																											
	7			25																																											
	8			26																																											
	9			27																																											
	10			28																																											
	11			29																																											
	12			30																																											
	13			31																																											
	14			32																																											
	15			33					B F L 装飾品制作																																						
	16			34					B F L 衣装最終仕上げ																																						
	17		35	総括																																											
	18	B F L 衣装制作																																													
評価方法	1・出席率 2・授業態度 3・課題 4・期末テスト 以上の累積により評価する。 注：出席率80%以下の学生には期末テストを行わない。																																														
学生へのメッセージ	1年次で学んだ基礎知識に加え、素材やデザイン別の縫製技術について学ぶことでファッションへの造詣を深めます。また、課題制作で身につけた技術をファッションショーの衣装制作に生かします。																																														

授 業 計 画 書

シ ラ バ ス

科目名	ファッションデザインII (ファッション発展科目)	担当教員	三上 貴久 (実務経験有)
配当年次	専門課程2年次	授業形式	講義 演習
必修・選択	必修科目	履修時間数	70時間 (2時間/週)

項 目	内 容																																																					
授業の主題と目標	Bunka Fashion Liveと連動し、ファッションデザイン全般への応用力を習得します。また、1年次で習得したデザイン画法を基に、各コンテスト等も積極的に参加し、デザインの発想方法とデザイン画の表現方法の効果的なマッチングを学習します。表現力の育成・応用と業界適応能力の向上を狙い、ファッションデザインの様々な視点から深く追求します。																																																					
目標資格																																																						
使用テキスト																																																						
参考書	必要に応じて紹介																																																					
授業計画	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td rowspan="18" style="width: 5%; text-align: center; vertical-align: middle;">前期</td> <td style="width: 5%; text-align: center;">1</td> <td style="width: 60%;">導入</td> <td style="width: 5%; text-align: center;">19</td> <td rowspan="18" style="width: 5%; text-align: center; vertical-align: middle;">後期</td> <td rowspan="3" style="width: 20%;">表現技法②・BFL対策</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">2</td> <td rowspan="3" style="vertical-align: middle;">表現技法①・BFLデザイン</td> <td style="text-align: center;">20</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">3</td> <td style="text-align: center;">21</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">4</td> <td style="text-align: center;">22</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">5</td> <td rowspan="3" style="vertical-align: middle;">表現技法③・BFL対策</td> <td style="text-align: center;">23</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">6</td> <td style="text-align: center;">24</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">7</td> <td style="text-align: center;">25</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">8</td> <td style="vertical-align: middle;">デザインA・ コンテスト対策</td> <td style="text-align: center;">26</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">9</td> <td rowspan="3" style="vertical-align: middle;">表現技法④・BFL対策</td> <td style="text-align: center;">27</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">10</td> <td style="text-align: center;">28</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">11</td> <td style="text-align: center;">29</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">12</td> <td rowspan="3" style="vertical-align: middle;">表現技法⑤・BFL対策</td> <td style="text-align: center;">30</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">13</td> <td style="text-align: center;">31</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">14</td> <td style="text-align: center;">32</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">15</td> <td style="vertical-align: middle;">デザインC・ コンテスト対策</td> <td style="text-align: center;">33</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">16</td> <td rowspan="3" style="vertical-align: middle;">表現技法⑤・BFL対策</td> <td style="text-align: center;">34</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">17</td> <td style="text-align: center;">35</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">18</td> <td style="text-align: center;">35</td> </tr> <tr> <td colspan="2"></td> <td style="text-align: center;">35</td> <td style="text-align: center;">総括</td> <td colspan="2"></td> </tr> </table>	前期	1	導入	19	後期	表現技法②・BFL対策	2	表現技法①・BFLデザイン	20	3	21	4	22	5	表現技法③・BFL対策	23	6	24	7	25	8	デザインA・ コンテスト対策	26	9	表現技法④・BFL対策	27	10	28	11	29	12	表現技法⑤・BFL対策	30	13	31	14	32	15	デザインC・ コンテスト対策	33	16	表現技法⑤・BFL対策	34	17	35	18	35			35	総括		
前期	1		導入	19	後期			表現技法②・BFL対策																																														
	2		表現技法①・BFLデザイン	20																																																		
	3			21																																																		
	4			22																																																		
	5		表現技法③・BFL対策	23																																																		
	6			24																																																		
	7			25																																																		
	8		デザインA・ コンテスト対策	26																																																		
	9		表現技法④・BFL対策	27																																																		
	10			28																																																		
	11			29																																																		
	12		表現技法⑤・BFL対策	30																																																		
	13			31																																																		
	14			32																																																		
	15		デザインC・ コンテスト対策	33																																																		
	16		表現技法⑤・BFL対策	34																																																		
	17			35																																																		
	18	35																																																				
		35	総括																																																			
評価方法	1・出席率 2・授業態度 3・課題 以上の累積により評価する。																																																					
学生へのメッセージ	デザイン画の基礎を応用し、イラストレーションの技法や専門性の高い表現方法について"自分自身のスタイル"を構築します。また、各コンテストやコンクール等にも積極的に出展し、クリエイターとしてのオリジナリティを模索・探求します。																																																					

授 業 計 画 書

シ ラ バ ス

科目名	ファッションビジネスⅡ(ファッション基礎科目)	担当教員	竹洞 春佳(実務経験有)
配当年次	専門課程2年次	授業形式	講義 演習
必修・選択	必修科目	履修時間数	35時間(1時間/週)

項 目	内 容					
授業の主題と目標	商品企画からデザイン、素材、生産、販売、宣伝などについてより深く理解し、ファッションビジネスに必要な鋭い洞察力・具体化方法・演出力・技術を育成。業界特有の抽象性と物理性の両面を理解し、十分な知識と技術を習得する。					
目標資格	日本ファッション教育振興協会 ファッションビジネス能力検定2級					
使用テキスト	ファッションビジネス2級 新版					
参考書	必要に応じて紹介					
授業計画	前期	1	ファッションビジネスの事業特性	後期	19	企業会計
		2	繊維ファッション産業の歴史		20	計数管理
		3	近年のファッションビジネス動向		21	服装史の基礎知識
		4	ファッション消費行動		22	現代のファッションとデザイン
		5	グローバル視点で捉えたアパレル産業		23	ファッション企業のスタイリング計画
		6	繊維産業の知識		24	VMDの知識
		7	企業環境の分析		25	検定試験対策①
		8	アパレル企業のマーケティング		26	検定試験対策②
		9	アパレルMDと商品開発		27	検定試験対策③
	10	リテールMDとバイイング	28		アパレル商品の応用知識	
	11	商品構成とVMD	29		服飾雑貨の商品知識	
	12	アパレル生産管理	30		素材の応用知識	
	13	物流とロジスティクス	31		副資材の知識	
	14	流通戦略と商取引	32		デザインの提案とディレクション	
	15	店舗運営	33		ファブリケーション	
	16	ファッション企業のプロモーション	34		ファッションエンジニアリング	
	17	キャリアプラン	35		総括	
	18	マネジメント・IT知識				
評価方法	1・出席率 2・授業態度 3・課題 4・期末テスト 以上の累積により評価する。 注：出席率80%以下の学生には期末テストを行わない。					
学生へのメッセージ	デザイン・マーケティング情報を駆使しての商品企画から、商品生産、流通、販売促進等にいたるまでの高度な専門知識と技術を習得します。また、目標資格として、日本ファッション教育振興協会主催ファッションビジネス能力検定2級の取得を目指します。					

授 業 計 画 書

シ ラ バ ス

科 目 名	カラーコーディネートⅡ（ファッション基礎科目）	担 当 教 員	岡 詩子（実務経験有）
配 当 年 次	専門課程 2年次	授 業 形 式	講義 演習
必修・選択	必修科目	履修時間数	35時間（1時間/週）

項 目	内 容																																																																						
授業の主題と目標	アパレル企業をはじめ、繊維ファッション業界の様々な分野では、色彩に関する知識と実務での運用能力が、それぞれの業務遂行に不可欠であることは言うまでもないことですが、これから、ファッションに関連する仕事を、より効果的に遂行するためには、さらに、専門的な色彩の知識とともに、運用するスキルが必要になり、重要となります。色彩に関連する役割に就き、業務の目的を把握し、それに沿った計画を立案し実行できるレベル。企画・デザインに関連する業務であれば、与えられた業績データや予測情報、立案されたコンセプトから適切な色彩計画を立案し、商品として実現できるレベル。販売業務であれば、顧客の購買行動を意識した店舗ビジュアル・マーチャンダイジングを色彩の視点から立案できるレベル。また、顧客の購買・着用目的、パーソナリティを推測しながら、適切なコーディネーションの提案ができるレベルを目指します。																																																																						
目標資格	日本ファッション教育振興協会 ファッション色彩能力検定試験 2級																																																																						
使用テキスト	ファッション色彩〔Ⅱ〕、ファッション色彩能力検定試験 2級問題集																																																																						
参考書等	ベーシックカラー、カラーチャート																																																																						
授業計画	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td rowspan="18" style="text-align: center; vertical-align: middle;">前期</td> <td style="text-align: center;">1</td> <td>概論－産業における色彩</td> <td rowspan="18" style="text-align: center; vertical-align: middle;">後期</td> <td style="text-align: center;">19</td> <td>日本の古典的な配色</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">2</td> <td>産業と色彩</td> <td style="text-align: center;">20</td> <td>ファッション産業における色彩計画</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">3</td> <td>ファッション産業と色彩</td> <td style="text-align: center;">21</td> <td>ファッション産業において色彩を取り</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">4</td> <td>色彩理論－光、視覚、心理</td> <td style="text-align: center;">22</td> <td>扱う姿勢</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">5</td> <td>光と色</td> <td style="text-align: center;">23</td> <td>情報としての色彩</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">6</td> <td>視覚のしくみ</td> <td style="text-align: center;">24</td> <td>商品企画による色彩計画</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">7</td> <td>色彩と心理</td> <td style="text-align: center;">25</td> <td>カラーコンセプト・カラーテーマ</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">8</td> <td rowspan="2">色彩体系－色名とカラーシステム</td> <td style="text-align: center;">26</td> <td rowspan="2">デザインにおける色彩計画</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">9</td> <td style="text-align: center;">27</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">10</td> <td>色名</td> <td style="text-align: center;">28</td> <td>テキスタイルデザインにおける色彩</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">11</td> <td>三属性による色の表示方法</td> <td style="text-align: center;">29</td> <td>生産段階における色彩</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">12</td> <td>色見本とカラーコード</td> <td style="text-align: center;">30</td> <td>色の見え方の問題</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">13</td> <td>配色と色彩調和</td> <td style="text-align: center;">31</td> <td>色彩の管理</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">14</td> <td>流行配色</td> <td style="text-align: center;">32</td> <td>販売における色彩計画</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">15</td> <td>調和の技術</td> <td style="text-align: center;">33</td> <td>パーソナルコーディネーションと色彩</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">16</td> <td>色彩調和論</td> <td style="text-align: center;">34</td> <td>パーソナルカラー診断</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">17</td> <td>ファッションイメージと</td> <td style="text-align: center;">35</td> <td rowspan="2">総括</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">18</td> <td>カラーコーディネーション</td> </tr> </table>	前期	1	概論－産業における色彩	後期	19	日本の古典的な配色	2	産業と色彩	20	ファッション産業における色彩計画	3	ファッション産業と色彩	21	ファッション産業において色彩を取り	4	色彩理論－光、視覚、心理	22	扱う姿勢	5	光と色	23	情報としての色彩	6	視覚のしくみ	24	商品企画による色彩計画	7	色彩と心理	25	カラーコンセプト・カラーテーマ	8	色彩体系－色名とカラーシステム	26	デザインにおける色彩計画	9	27	10	色名	28	テキスタイルデザインにおける色彩	11	三属性による色の表示方法	29	生産段階における色彩	12	色見本とカラーコード	30	色の見え方の問題	13	配色と色彩調和	31	色彩の管理	14	流行配色	32	販売における色彩計画	15	調和の技術	33	パーソナルコーディネーションと色彩	16	色彩調和論	34	パーソナルカラー診断	17	ファッションイメージと	35	総括	18	カラーコーディネーション
前期	1		概論－産業における色彩	後期		19	日本の古典的な配色																																																																
	2		産業と色彩			20	ファッション産業における色彩計画																																																																
	3		ファッション産業と色彩			21	ファッション産業において色彩を取り																																																																
	4		色彩理論－光、視覚、心理			22	扱う姿勢																																																																
	5		光と色			23	情報としての色彩																																																																
	6		視覚のしくみ			24	商品企画による色彩計画																																																																
	7		色彩と心理			25	カラーコンセプト・カラーテーマ																																																																
	8		色彩体系－色名とカラーシステム			26	デザインにおける色彩計画																																																																
	9					27																																																																	
	10		色名			28	テキスタイルデザインにおける色彩																																																																
	11		三属性による色の表示方法			29	生産段階における色彩																																																																
	12		色見本とカラーコード			30	色の見え方の問題																																																																
	13		配色と色彩調和			31	色彩の管理																																																																
	14		流行配色			32	販売における色彩計画																																																																
	15		調和の技術			33	パーソナルコーディネーションと色彩																																																																
	16		色彩調和論			34	パーソナルカラー診断																																																																
	17		ファッションイメージと			35	総括																																																																
	18	カラーコーディネーション																																																																					
評価方法	1・出席率 2・授業態度 3・課題 4・期末テスト 以上の累積により評価する。（期末テストによる評価だけではない） 注：出席率80%以下の学生には期末テストを行わない。																																																																						
学生へのメッセージ	ファッションに関連する仕事を遂行する上で必要とする、色彩に関する基礎から高度な知識までを学びます。また、基本的な色彩運用スキルから高度な色彩実務スキルまで学んでもらい、鋭い色彩感覚と着実な色彩運用能力を身につけていただき、企業の実務で活用を願うことを目的とします。																																																																						

授 業 計 画 書

シ ラ バ ス

科 目 名	ショープランニング（ファッション基礎科目）
配 当 年 次	専門課程1・2年次
必修・選択	必修科目

担 当 教 員	大水 咲良（実務経験有）、各講師
授 業 形 式	講義 演習
履修時間数	70時間（2時間/週）

項 目	内 容						
授業の主題と目標	ファッションショーに関する企画、構成、演出等の立案および計画。 また、ヘアメイクやウォーキング等を含めた「トータルファッション」をディレクション出来る知識や技術を習得します。						
目標資格							
使用テキスト	必要に応じてプリント等配布						
参考書	必要に応じて紹介						
授業計画	前 期	1	導入、プレゼンテーション	19	企画・構成・演出 プランニング		
		2		20			
		3	企画・構成・演出 プランニング	21	ヘアメイク		
		4		22			
		5	学園祭準備	23	BFL 楽曲視聴		
		6		24	ウォーキング考案		
		7		25			
		8	BFL 楽曲打合せ	26	後 期	27	ウォーキング実践
		9	ヘアメイク実践	28			
	10	29					
	11	ウォーキング考案	30				
	12	ウォーキング実践	31	衣装チェック			
	13		32	ウォーキング実践			
	14		33				
	15	学園祭ファッションショー	34	Bunka Fashion Live			
	16		35	総括			
	17	前期振り返り・学園祭総括					
	18						
評価方法	1・出席率 2・授業態度 3・課題 以上の累積により評価する。						
学生へのメッセージ	青森中央文化専門学校では、ファッションショーを学生のセルフプロデュースにて実施。 学生全員で積極的にディスカッションし、ステージを創り上げて欲しい。						

授 業 計 画 書

シ ラ バ ス

科 目 名	キャリアデザインⅡ（キャリア科目）	担 当 教 員	竹洞 春佳（実務経験有） キャリア支援センター
配 当 年 次	専門課程 2年次	授 業 形 式	講義 演習
必修・選択	必修科目	履修時間数	35時間（1時間／週）

項 目	内 容					
授業の主題と目標	就職活動、就職試験に向けた対策授業。専門学校生用の就職模擬試験や企業エントリー等トータル的な就職支援を行う。「聞く・話す・読む・書く」力や問題解決力を養成し、コミュニケーション能力・ヒューマンスキルを高めることに重点を置く。					
目標資格						
使用テキスト	必要に応じてプリント等配布					
参考書	必要に応じて紹介					
授業計画	前 期	1	導入	後 期	19	就職活動報告
		2	情報収集		20	職業人の心構え①
		3	自己PR		21	職業人の心構え②
		4	エントリーシート①		22	職業人の心構え③
		5	エントリーシート②		23	職業人の心構え④
		6	エントリーシート③		24	職業人の心構え⑤
		7	履歴書①		25	社会人基礎力①
		8	履歴書②		26	社会人基礎力②
		9	履歴書③		27	社会人基礎力③
		10	面接①		28	社会人基礎力④
		11	面接②		29	法令遵守①
		12	面接③		30	法令遵守②
		13	グループディスカッション①		31	ワークライフバランス①
		14	グループディスカッション②		32	ワークライフバランス②
		15	グループディスカッション③		33	グローバル経済・国際理解①
		16	社会人のモラル		34	グローバル経済・国際理解②
		17	社会人と職業人①		35	総括
		18	社会人と職業人②			
評価方法	1・出席率 2・授業態度 3・課題 以上の累積により評価する。					
学生へのメッセージ	個々の就職活動状況とも連動しながら様々なケースへ柔軟に対応し、希望職種の内定を目指します。目標の達成には自主的な行動力が必要不可欠になりますので、積極的に取り組んでください。内定はゴールではなくスタートです。社会人基礎力を蓄える1年にしましょう。					

授 業 計 画 書

シ ラ バ ス

科 目 名	コンピュータワーク（キャリア科目）	担 当 教 員	佐藤 紋子（実務経験有）
配 当 年 次	専門課程1・2年次	授 業 形 式	講義 演習
必修・選択	必修科目	履修時間数	70時間（2時間／週）

項 目	内 容			
授業の主題と目標	情報ネットワーク社会の急速な進展およびスマートフォンやタブレット端末、ソーシャルメディア、クラウド等の普及により、ライフスタイルやワークスタイルが大きく変化する時代の中、ITやインターネットに関するスキルを身につけることは、社会生活を送るうえで欠かせないものとなっている。企業実務においては、パソコンソフト等によるビジネス文書の作成能力や業務データの処理・分析能力、さらには情報機器およびネットワークの利活用による事務能力や情報収集・発信能力が求められている。本科目においては、前期では、パワーポイントとエクセルに関する内容を、習得度別で授業を展開する。後期においては、ワードの基本操作～応用までに関する文書作成スキルを学ぶことを目的に授業を展開する。			
目標資格	日本商工会議所日商PC検定プレゼン資料作成3級 日本商工会議所日商PC検定データ活用3級 その他			
使用テキスト	よくわかるマスター日商PC検定試験プレゼン資料作成3級 よくわかるマスター日商PC検定試験データ活用3級 その他			
参考書	必要に応じて紹介する			
授業計画	前 期	後 期		
	1	19	演習（Word）	
	2 導入	20		
	3 PowerPoint①	21	演習（Word）	
	4 Excel①	22		
	5 PowerPoint ②	23	演習（Word）	
	6 Excel②	24		
	7 PowerPoint ③	25	演習（Word）	
	8 Excel③	26	総括	
	9 PowerPoint ④	27	演習（Word）	
	10 Excel④	28	総括	
	11 演習（PowerPoint・Excel）	29	演習（Word）	
	12 検定試験対策問題	30	総括	
	13 演習（PowerPoint・Excel）	31	演習（Word）	
	14 検定試験対策問題	32	総括	
	15 演習（PowerPoint・Excel）	33	演習（Word）	
	16 検定試験対策問題	34	総括	
	17 演習（PowerPoint・Excel）	35	演習（Word）	
	18 検定試験対策問題			
評価方法	1・出席率 2・授業態度 3・課題提出 4・小テスト 5・資格取得 以上の累積により総合評価する。 注：出席率80%以下の学生には小テストを行わない。			
学生へのメッセージ	ソフトは自分の意思を相手に伝えるツールです。まずはソフトに対する基本操作スキルをアップさせ、難しい操作にもチャレンジし、資格取得を目標にしてください。取得資格は総合評価のポイントとします。また、基本操作技術だけでは相手に自分の意思は伝わりません。発表スキルも併せて学習していきます。			

授 業 計 画 書

シ ラ バ ス

科 目 名	生活文化セミナー（キャリア科目）
配 当 年 次	専門課程1・2年次
必修・選択	必修科目

担 当 教 員	各講師
授 業 形 式	講義 演習
履修時間数	70時間（2時間/週）

項 目	内 容			
授業の主題と目標	<p>本授業は、まず自国の文化、郷土の文化を知ること、そして多様化している国際社会の中で世界に共通する教養・マナーを身につけることは必要なことであり、また、その他様々なプログラムを通じて経験を重ねることで、自分の将来に少しでも役立ててもらおうことを目的としている。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 2 ねぶた囃子（郷土の文化、ねぶた祭に囃子方として参加します） 3 華道・茶道 4 レクリエーション 5 学生会総会 6 学期末清掃 7 テーブルマナー 8 初釜 9 その他 			
目標資格	小原流華道許状 遠州流茶道許状			
使用テキスト	小原流花型カード 他			
参考書	必要に応じて紹介			
授業計画	前期	後期		
	1	オリエンテーション	19	華道 導入
	2	ねぶた説明	20	茶道 導入
	3	学生会役員決め	21	華道・茶道
	4	郷土文化体験 ねぶた囃子	22	華道・茶道
	5	郷土文化体験 ねぶた囃子	23	華道・茶道
	6	郷土文化体験 ねぶた囃子	24	華道・茶道
	7	郷土文化体験 ねぶた囃子	25	華道・茶道
	8	創立記念レクリエーション	26	華道・茶道
	9	郷土文化体験 ねぶた囃子	27	華道・茶道
	10	郷土文化体験 ねぶた囃子	28	華道・茶道
	11	学生会総会	29	華道・茶道
	12	郷土文化体験 ねぶた囃子	30	華道・茶道
	13	ねぶた合同練習	31	初釜
	14	学期末清掃	32	卒業生講話
	15	ねぶた祭参加	33	学期末テスト
	16	ねぶた祭参加	34	学園感謝祭
	17	テーブルマナー	35	学期末清掃
	18	前期振り返り・学園祭総括		
評価方法	1・出席率 2・授業態度 3・レポート 以上の累積により評価する。			
学生へのメッセージ	幅広い教養を身につけていることは、人間の豊かさ、深さに通じます。郷土青森の文化を知ること、また華道・茶道の体験を通し、社会に通じる教養やマナーを身に付けて欲しい。			